

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム ほしおき (おおぞらユニット)		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2-12 星置駅前メディカル2F		
自己評価作成日	令和3年 11月12日	評価結果市町村受理日	令和3年 12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0190400309-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【基本理念】</p> <p>①いつも笑顔で暖かく見守ります。 ②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行っていきます。 ③地域とのふれあいを大切にして明るい穏やかな生活をしていきます。</p> <p>上記の理念に基づき、利用者様とのコミュニケーションを大切にしながら、毎日の生活支援やケアを行っています。日々の記録や情報の分析・共有のため2年前よりパソコンとタブレットを導入し、全ての職員が使用しています。また他のホームに比べて比較的広い空間を活用し、様々なアクティビティを毎月企画行っています。その様子はインターネット上で定期的に更新し、ご家族様や一般の方にもご覧いただいています。メディカルビルの中にあるメリットを活かし、内科医による定期的な往診や、緊急時に整形外科等への迅速な受診、歯科医による往診や口腔ケア指導など、医療との連携が密接に行われています。そして本年11月より、同ビル内の薬局による居宅療養管理指導も始まり、薬剤の管理や相談が今まで以上に確実に出来ることから多職種連携によるケアを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR星置駅前立地し金融機関や交番、商業施設が近く、家族が頻繁に訪問できる利便性がある。3階建てのビル内に構える事業所は1階の内科と3階の整形外科が協力医療機関になっており、医療面でサポートが受けやすい環境が整っている。事務所を中心に2つのユニットが隣接しているので利用者はユニット間を自由に行き来することができる。共有空間や居室は家庭的で明るく、採光、換気、温湿度に配慮しながら自宅のように穏やかな気持ちで過ごせるよう支援をしている。法人は全道に多数の高齢者住宅や有料老人ホーム、グループホーム等の介護施設を運営しており、協力体制が確立されている。管理者は地域の福祉関連施設と積極的に交流し、感染症の流行で参集できない現状でもWeb会議等で情報を共有し協力関係を築いている。日々朝夕の申し送り時に管理者と職員が事業所の「理念」と「身体拘束等の適正化のための指針」を唱和し、毎日のケアを振り返る事で、意識をした介護をすることにつながっている。介護計画の作成や更新時には、職員全員で意見を出し合い利用者全員のモニタリングを検討し、情報を追記して作り上げている。管理者や職員は、感染症対策として外部との交流に制限がある現状であっても、事業所内で楽しめる行事を実施する事で、利用者の毎日の生活が明るい雰囲気でも過ごせるよう支えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に掲示し、朝夕の申し送りで唱和している。	理念はパンフレットや事業所内のユニット入口と事務所に掲示しており、職員間で共有をしている。理念を実践につなげるよう職員は日々の暮らしを支え、暖かく見守りながら穏やかな生活が続くようチームケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、コロナの為に現在交流は行われていない。	町内会の回覧板で地区の情報を確認し、事業所のブログで情報を発信している。非常事態宣言の解除に伴い、段階的に地域交流を再開するために事業所の屋外に散歩に出ることから始めており、今後どのようなことが出来るか検討をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為に、地域の人々に向けての発信していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催しているが、コロナの為に職員のみで行っている。	運営推進会議は事業所の役職者の出席で開催し、議事録は地域包括支援センターと利用者の家族全員に郵送し意見をもらえるような取り組みをしている。職員にも回覧し周知している。事業所の活動や報告などを確認できる内容になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの為、感染の検査や情報提供のために連絡は取りあっている。	職員の抗原定量検査の実施協力を得ている。保護課の確認調査に情報を提供し報告を行っている。ブログで情報を発信し手稲ケア連絡会、地域連携していネット等、有志が集うzoom会議で情報交換をして協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、職員による不適切ケア防止委員会を開催し確認している。	身体拘束に係る指針を準備しており、不適切ケア防止委員会を年4回開催し、それらに係る研修も実施している。毎月行う身体拘束適正化の取り組み実施状況確認表も活用している。職員は会議で不適切ケアや虐待を防止する勉強を繰り返し学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度、職員による不適切ケア防止委員会を開催し確認している。また虐待についても全職員参加の研修を実施している。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はコロナの為、この分野の研修は行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やその家族に対し、十分な説明を行い、理解・納得してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社に苦情相談窓口を設置している。 コロナの為家族とのコミュニケーションが減っているが、管理者が定期的に電話等で様子は知らせている。	家族へ電話で受診や生活状況を報告する際に、意見や要望を聞いて運営に反映させている。事業所のホームページに行事や日々の様子を写真付きで開示し、個別に利用者家族に出す毎月のお便りでも報告をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員による会議を開催し、職員からの発言も聞いている。	管理者やリーダーが日々の勤務で職員の意見を聞いており、有給休暇の取得や希望休も取りやすく働きやすい環境を整えている。資格取得や研修参加費の助成金制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は定期的に職員と面談の機会をもち、意見や要望を聞くことで職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社の資格取得支援制度を活用し、初任者研修や実務者研修の受講を勧めている。社内研修では、個々に合わせたテーマでレポートを提出してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、社内社外問わず他の事業所訪問を控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談を行い、本人から要望を聞いている。また入居後も、本人からの要望を聞いた職員は管理者に伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を行い、家族から要望を聞いている。また入居後も、コロナの中で管理者は定期的に家族と連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からフェイスシートは全職員が確認し、必要な支援を認識している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状況を見極めながらレクリエーションや家事のお手伝いをお願いするなど関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会が制限されているが、リモートによる面会や、行事毎にはがきにメッセージを書いて返信して頂くなどご家族とのつながりを大切にしている。緊急事態宣言終了後には、ガラス越しでの面会を実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、面会が制限されているため、電話や手紙での交流に限定されている。	感染症対策として自由に外出が出来ない状況であるが、事業所入り口のガラス戸越しの面会やzoom面会ができるよう支援をしている。行事の際に利用者に渡す手紙を家族に書いてもらい、代読や掲示する事で関係が途切れない取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごせる場を作ったり、入居者同士の関係が保てるようさりげなく間に入るなど支援している		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にも必要に応じて相談を受けるなど、対応している。また、退去後の様子などもご連絡頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、希望されていることを把握し、毎月の会議で検討し、共有している。	利用者の何気ない日々の会話を傾聴し意向を確認している。フェイスシートを活用し発語が困難な場合は、目を見て話しかけた時の反応や仕草をユニットカンファレンスで検討し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族の話、日常の生活の中からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや介護記録で現状を把握し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスと個別のモニタリングを行い、介護計画に反映している。	職員それぞれの気づきを集約しカンファレンスを行っている。計画作成担当者が家族等の意見を取り入れた介護計画を作り適宜、更新している。変化が生じた場合は現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットで入居者の様子を個別に入力し、パソコンにより情報の共有や分析を行い、日々の支援や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・希望に耳を傾け、柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外部との関わりは、制限されているが、地域包括支援センター等の協力を得ながら支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ビル内に内科・整形外科があり、月2回主治医による訪問診療を行っている。	1階内科の医師による訪問診療や、看護師が週1回訪れ健康管理を行っている。医師や看護師とはいつでも連絡が取れる体制である。歯科の往診もあり適切な医療を受けられる体制が整っている。	

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医のいる内科の看護師が週に1回訪れ、会話を交えて、体調や現状を把握して下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療関係者と情報交換を行うと共に入院時には看護添書を作成している。早期退院の場合には、ソーシャルワーカーからの連絡をもとにご家族へ連絡し、受け入れ体制を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に事業所の方針を口頭説明している。入居者が重度化した場合には、早い段階から医師と相談し最良の方法での支援に取り組んでいる。	利用開始前に「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。本人と家族が希望する対応が出来るよう、医療関係者からの意見も仰ぎ検討している。他の医療・福祉機関への移行支援についても話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生マニュアルがあり、それに沿って救急搬送等を行っている、応急処置の研修受講は、今後検討していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策体制は確立されており、年2回入居者参加の避難訓練を実施。地震・水害時の訓練は区別して行っている。コロナ禍により、地域との協力は難しい状況となっている。	火災訓練で利用者を避難誘導する訓練や、自然災害を想定した訓練を実施している。避難場所にて有効な感染症対策のための災害備蓄品も備えてある。非常食を試食し、災害時に利用者が摂取できるか確認をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で意識しながら、声掛けをしている。ご本人の尊厳やプライバシー保護に努めている。	不適切事例ビデオを全職員が視聴し感想を書きます研修や、最近報道された介護現場における不適切事例を提示するなど、具体的な内容を通じて職員個々に考えや思いを抱く学びを行っている。	職員が利用者の立場になり代わり、自分であったらどう対応して欲しいか、介護場面も想定しつつ学び合い、接遇のあり方の研究に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、何を希望されているか聞き取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、できる限り希望に沿えるよう取り組む努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容サービスがあり、それぞれ希望によりカットや髪染めなどされている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器拭きを手伝って頂いたり、食事中に料理についての会話をするなど楽しい雰囲気です。食事ができるよう努めている。	栄養管理が行き届いた献立で季節の行事食なども盛り込まれている。敬老会の祝膳や食事会形式、おやつもワッフル作りやテーブルクロスを替えてティータイムなど趣向を凝らしている。利用者が一緒に食事に係る作業を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士のもとで栄養バランスを考えた献立となっている。食事量・水分量をチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを支援している。また、定期的に訪問歯科の往診を受け、口腔内の清潔保持に努めている。食前に口腔体操を実施し、咀嚼・嚥下の低下防止にも取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに間隔を把握し、職員間で情報を共有しながら、声掛けや誘導をし、自立に向けた支援を行っている。	タイミングを見計らう誘導により排泄がスムーズになった利用者がある。尿量の増加が見られる時は衛生用品の選別と当て方を検証し本人が困らないようにしている。排泄状況をモニタリングし適宜支援を見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳を提供したり、水分チェック表により、水分が足りない時には、提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の健康状態や精神状態を考慮し、週2~3回入浴して頂いている。ご本人の希望に沿うように心がけている。	入浴を嫌がる利用者が浴場で自ら立ち上がるようになったり、新人職員の「一緒に行きませんか?」「お風呂お手伝いしますか?」の声かけで利用者が「お願いできる?」と返答するなど、良好な入浴につながる事例がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせてエアコン等を使用し、室温の調整を行い、照明の明るさを考え、リラックスできる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員2人に対応し、誤薬防止に取り組んでいる。また、薬の変更時には、職員間で情報を共有し、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは、全員が楽しめるよう提供の仕方を工夫したり、体を動かさずものを取り入れ飽きないようにしている。月ごとの行事を計画し、楽しんで頂いている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はご家族との外出も含め外出は中止している。また買い物等の外出も行っていない。玄関前で日光浴をすることで、気分転換を図っていたが、緊急事態宣言解除後は、施設の周辺に散歩に出かけることができるようになった。	感染症予防により例年の買い物やドライブ、喫茶店などの外出は制限されている。同建物内の病院が休みの日に玄関に椅子を置き外を眺めながらお喋りをしている。ユニット間の行き来も自由であり気の合う利用者同士が将棋を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針として金銭は個人で所持せず、会社立て替え金として買い物に利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話を利用してもらっている。届いた私信はお渡ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、TVが視聴できるようソファを置いたり、行事の様子の写真を掲示、季節感のある飾りを貼って楽しんで頂いている。共用の場は、清潔を保つよう職員も気を付けている。	ユニット玄関ホールにテーブルや椅子を配置し感染対策の元に家族面会ができるようにしている。共用空間は広く明るい作りで、ダイニングコーナーとソファコーナーがあり、利用者の居場所を確保している。内装やキッチンも年数が経過している風情でもあるが清掃が行き届いている。家族からのメッセージや写真も掲示され温かみがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の希望によりソファ席でテレビを見たり、本を読むなど思い思いに過ごされている。また、居室で休まれたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスなど日常使用するものについて、ご家族と相談し、安全に使い慣れたものを利用して頂いている。	居室入り口には飾りに名前を添え自室と分かるようにし、室内にクロゼットが備え付けられている。馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、設えは家族や本人の意向に応じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているため移動に不自由がない。また、各部屋の入り口にはネームプレートを付け、トイレもわかりやすいよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム ほしおき (だいちユニット)		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2-12 星置駅前メディカル2F		
自己評価作成日	令和3年 11月12日	評価結果市町村受理日	令和3年 12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0190400309-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【基本理念】</p> <p>①いつも笑顔で暖かく見守ります。 ②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行っていきます。 ③地域とのふれあいを大切にして明るい穏やかな生活をしていきます。</p> <p>上記の理念に基づき、利用者様とのコミュニケーションを大切にしながら、毎日の生活支援やケアを行っています。日々の記録や情報の分析・共有のため2年前よりパソコンとタブレットを導入し、全ての職員が使用しています。また他のホームに比べて比較的広い空間を活用し、様々なアクティビティを毎月企画行っています。その様子はインターネット上で定期的に更新し、ご家族様や一般の方にもご覧いただいています。メディカルビルの中にあるメリットを活かし、内科医による定期的な往診や、緊急時に整形外科等への迅速な受診、歯科医による往診や口腔ケア指導など、医療との連携が密接に行われています。そして本年11月より、同ビル内の薬局による居宅療養管理指導も始まり、薬剤の管理や相談が今まで以上に確実に進めることから多職種連携によるケアを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と各ユニットに掲示し、朝・夕の申し送り時に唱和し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、会議への参加や月に1回ボランティアを招き、手品と歌を披露して頂く等、地域との交流があったが、コロナ禍により、現在は、行われていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ご家族や町内会地域の住民や地域包括支援センター・老人施設関係者の参加を得て、認知症ケアについての情報交換を行っていたが、コロナ禍により、施設内の職員参加での実施となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の行事の取り組みの様子や日常の様子、また、自己評価や外部評価の項目についても触れる機会を持っている。また、現在抱えている問題点や改善されたことについても話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの為、行えていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回「不適切ケア防止委員会」を各ユニットより委員を選出し行っている。現状の事案について話し合い、委員会の記録を全職員に開示し、意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に話し合う機会を持ち、全体に内容を開示する事で、防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で職員に対し、学ぶ機会を持ってもらっている。入居者の家族が利用の際は、支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、重要事項を分かり易く説明し、理解、納得を図っている。改定時には、本社より書面で説明、ホームでは、管理者が説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社に苦情相談窓口を設置し体制づくりをしている。ご家族の面会が、コロナ禍により、中止となっているため、管理者が定期的にご家族に入居者の様子を知らせることで、意見・要望を表せる機会に繋げている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議の中で、意見や要望を聞き、月例会議にて運営者に報告をしている。月例会議は、コロナ禍により、リモートで実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員と個別面談をする機会を持ち、意見交換や要望を聞くことで、向上心を持って働けるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の持たない職員に対し、本社の資格取得制度により、初任者研修・実務者研修を受講する機会を持ってもらい、職員のスキル向上に役立っている。社内研修では、個々に合わせたテーマを決めレポートの作成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、研修の機会や他事業所への訪問も難しくなっている。リモート会議で、他事業者との情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、日常の中でも、話をしていく中で安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いに耳を傾け、不安の残らないように関係づくりを心掛け、心配な時には、連絡できるような信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートを活用したり、ご家族やご本人との面談の中で希望を聞き、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状況を見極めながらレクリエーションや日常の会話の中で関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により、面会が制限されているため、リモートによる面会や母の日や敬老会にご家族へはがきにメッセージを書いて返信して頂き、行事の時に紹介することで、ご家族とのつながりを大切にしている。また、緊急事態宣言が終了後には、ガラス越しでの面会ができるようになり、面会に訪れている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、面会が制限されているため、電話や手紙での交流に限定されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごせる場を作ったり、入居者同士の関係が保てるようさりげなく間に入るなど支援している		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にも必要に応じて相談を受けるなど、対応している。また、退去後の様子などもご連絡頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、希望されていることを把握し、毎月の会議で検討し、共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族の話、日常の生活の中からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや介護記録で現状を把握し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで個別のモニタリングを行い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ipadが導入され、入居者の一日の様子を入力し、パソコン管理により情報の共有をし、日々の支援や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・希望に耳を傾け、柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外部との関わりは、制限されているが、地域包括支援センター等の協力を得ながら支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ビル内に内科・整形外科があり、月2回主治医による訪問診療を行っている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医である内科の看護師が週に1回訪れ、会話を交えて、体調や現状を把握して下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療関係者と情報交換を行うと共に入院時には看護添書を作成している。早期退院の場合には、ソーシャルワーカーからの連絡をもとにご家族へ連絡し、受け入れ体制を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に事業所の方針を口頭説明している。入居者が重度化した場合には、早い段階から医師と相談し最良の方法での支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生マニュアルがあり、それに沿って救急搬送等を行っている、応急処置の研修受講について考えては、今後、考えていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策体制はできており、年2回入居者参加の避難訓練を実施。地震・水害時の訓練は、一定化しておらず、検討の必要あり。コロナ禍により、地域との協力は難しい状況となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が日常の生活の中で意識しながら、声掛けをしている。ご本人の尊厳やプライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で、何を希望されているかを話せる雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、できる限り希望に沿えるよう取り組む努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容サービスがあり、それぞれ希望によりカットや髪染めなどされている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取りを手伝って頂いたり、食事中に料理についての会話をするなど楽しい雰囲気でき事ができるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士のもとで栄養バランスを考えた献立となっている。食事量・水分量をチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、起床時と毎食後、個々に応じ支援している。また、定期的に訪問歯科の往診を受け、口腔内の清潔保持に努めている。食前に口腔体操を実施し、咀嚼・嚥下の低下防止にも取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに間隔を把握し、職員間で情報を共有しながら、声掛けや誘導をし、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳を提供したり、水分チェック表により、水分が足りない時には、提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の健康状態や精神状態を考慮し、週2~3回入浴して頂いている。ご本人の希望に沿うように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせてエアコン等を使用し、室温の調整を行い、照明の明るさを考え、リラックスできる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員2人で対応し、誤薬防止に取り組んでいる。また、薬の変更時には、職員間で情報を共有し、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは、全員が楽しめるよう提供の仕方を工夫したり、体を動かすものを取り入れ飽きないようにしている。月ごとの行事を計画し、楽しんで頂いている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、ご家族との外出は、中止となっている。また、買い物等の外出も行っていない。玄関前で日光浴をすることで、気分転換を図っていたが、緊急事態宣言解除後は、施設の周辺に散歩に出かけることが出来るようになった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針として金銭は、会社立て替え金として買い物に利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で、電話を利用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、TVが視聴できるようソファを置いたり、行事の様子を掲示、季節感のある飾りを貼って楽しんで頂いている。共用の場は、清潔を保つよう職員も気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクリエーション以外は、居間でテレビを見たり、本を読むなど思い思いに過ごされている。また、居室で休まれたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスなど日常使用するものについて、ご家族と相談し、安全に使い慣れたものを利用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているため移動に不自由がない。また、各部屋の入り口にはネームプレートを付け、トイレもわかりやすいよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームほしおき

作成日：令和 3年 12月 17日

市町村受理日：令和 3年 12月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	職員が利用者の立場になり代わり、自分であつたらどう対応して欲しいか、介護場面も想定しつつ学び合い、接遇のあり方を考える	・利用者様の気持ちに寄り添いながら心落ち着くグループホームを目指す。	①利用者様への現在の対応を見直し適切な介助方法、言葉がけを見直し検討する。 ②職員は自分に置き換え将来、入居した際に自分ならどう対応して欲しいかを考える。 ③ご家族に施設に対するアンケートをお願いする。 ④接遇(会話、服装、電話応対等)	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。